

〔春一番が吹き 季節は変わる・・・〕

まとめの時期 折々に！

みなさんが協力して集めてくれた文房具。様々な調整を経て、最終的に能登町の教育委員会へ届けることになり、先週宅配便で発送が完了しました。能登町では未だにたくさんの方々が避難を余儀なくされ、学校も再開はしているものの、なかなか今までと同じような活動はできていないのだそうです。復興には、まだまだ時間がかかるといってお話でした。みなさんからの気持ちは、確実に能登町の生徒のみなさんに伝わると思います。教育委員会の方も、とても感謝して下さっています。学習委員会のみなさんが手紙を添えてくれています。落ち着いたらまた交流できるといいですね。私たちはいつまでも、登半島地震のことを忘れずにいたいと思います。そして、自分たちの生活にも活かしていきたいでしょう。

冬期トレーニングも最終日を迎えました。天候の関係で、なかなか実施することができなかったシーズンでしたが、参加していた仲間たちは、一人一人とても頑張っていました。三年生も数名が参加してくれました。受験勉強とトレーニングの両立はとても大変だった

と思いますが、さすが先輩、最後まで練習をリードしてくれていました。

最終日、特に素晴らしいと思ったことがあります。それは時間内に整列完了したことは勿論なのですが、集合時間よりも前に、多くの人たちが準備を終えていて、予定時刻よりも早くトレーニングがスタートしたことです。意識の高さ、一人一人の意欲を感じました。それぞれが自分の体力に合わせたメニューをこなしていました。どのチームも本当に真剣に取り組んでいたこと、何より自分の限界に挑戦しようとする気持ち、よく伝わってきました。こんな気持ちで取り組みを続けていければ、どんなものでも大きく可能性を伸ばしていけると思います。これからのみなさんの活躍がますます楽しみです。



春一番が吹き、このところ気温が上昇して、一気に春の訪れを感じるようになりました。校庭の梅の花も満開になりましたが、みなさんは気づいていましたか。テスト直前でもそれどころではない・・・と思った人もいるかも知れませんが、でも、季節は(時間は)確実に過ぎていく。季節の移り変わりぐらいは感じられるような心のゆとりを持ちたいですね。創立七十七年目、校庭の木々もとても大きくなりましたが、中には老木となり危険を伴うものも出てきました。先週それらの木々を伐採していただきました。新しい一歩を踏み出すためには、今までの生活をベースとしながらも、何かを見直していくことも必要なのだと思います。木々は剪定することで新しく芽吹いていきます。私たちの生活も、自分たちの手で見直し、新しい伝統となるものを一歩ずつ築き上げていきたいものです。それができる南中生の皆さんだと思います。

先週、卒業生が学校を訪ねてくれました。卒業して二十年ぶりの母校訪問です。思い出話に花が咲きましたが、二十年前の授業が、今でも心に残っていると話してくれました。一生懸命に仲間たちと一緒に取り組んだことは、いくつになっても心に残っているものなのだと改めて思いました。一時間一時間の授業も、一つ一つの活動も、全力で取り組むとどんなものでも心に残るのでしょうか。そんな生活を、一日を大切に頑張りたいですね！！